



A町、S番地、A丁目。P通りを抜けて、そのまた先の角を曲がったところに、

1つの看板があった。

「小悪魔取り揃えてます」

こんにちは。

「はい、こちらの席へどうぞ。貴方の事が好きです。」

「今日お会いできて本当に嬉しく思っております。」

「きれいな瞳をしてらっしゃいますね。」

こちらメニューでございます。

「何を仰いますかお客様。」

「滅相もございません。」

「ええ、ええ、上目遣いですね。かしこまりました。」

ありがとうございました。さようなら。

「お釣りを渡す時は、会釈はもちろん、手をぎゅっとしてさしあげますわ。」

「そうですよ。誰でも笑ってさしあげますのよ。えっ、、だって笑顔はただじゃないですか。こんなに丈夫で大きな網は他にないことですよ。」

サービス用品。

「チークでほんのり、頬も赤らめております。」

「コスプレ？いえいえ、これはただの作業服でございますよ。だって、プライベートでお会いした時に、驚きが作れますでしょ。」

「いつも来られてますね。お家は近いんですか。」

「今日は貴方が来ると思って、お団子にしてみましたの。」

「ちらちら目を合わせますの。だって気になるんですもの。」

お約束。

「えっ、連絡先ですか。」

「それはちょっと困りますお客様。だって今勤務中ですから。」

「はい、ぜひ。いえいえとんでもないです。」

「はい。またお待ちしております。」

緊急時。

\*お客様の大切なものを守ること

(例) 財布>時計>・・・>指紋のついた食器類>その他

なんだ、こんなマニュアルがあるじゃない。

これで私も安心ね。